

Part 2

大学生+社会人
インタビュー

大学生・社会人が振り返る 「今」を築いた出会い、言葉——私の原点

青少年期に誰と出会い、どのような経験をするかによってその後の生き方は大きく変わる。今回、編集部では大学生、20代の社会人にインタビューをし、現在の自分自身に影響を与えた、学校時代の経験を振り返ってもらった。

CASE 1 大学生Aさん(女性)

大学の意味を見いだすきっかけをくれた 高校時代の先輩の一言



◎愛知の国立大文学部美学美術史学専攻4年。高校では演劇部に所属し、大学では学内のギャラリー運営をサポート。新しいものが好きで、「興味があることには自分から積極的にかかわる」がモットー

中学の部活での挫折体験が 大学受験を頑張る力に

中学では3年間、バスケットボール部に所属していました。とても練習が厳しく、ときには倒れそうになりながらも自分なりに頑張ったと思います。しかし、思っ

たように上達せず、コーチにもあまり評価してもらえませんでした。私にとっては最初の挫折体験。負けず嫌いな私は、自分の前に出来た壁を越えられなかったのが悔しくて、「次に自分の前に壁が出来たら、必ず乗り越えてやる!」と強く思いました。

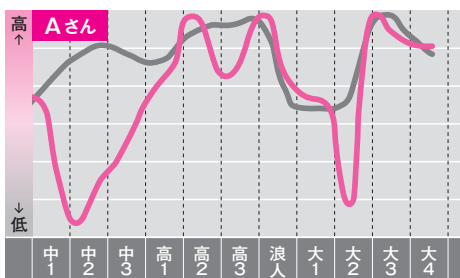
今振り返ってみると、この挫折体験が私の「頑張る力」の源になっていっていると思います。一度大学受験に失敗したのですが、諦めずに翌年同じ大学を受験し合格したのも、「今度こそ自分の前の壁を乗り越えよう」という思いがあったからです。

受験勉強と大学の学びの つながりがイメージできない

ただ、大学受験に関しては戸惑いが大きかったです。高3の1年間はどうしても受験勉強のやる気が湧きませんでした。美術に興味があり、美術史が学べる地元の国

立大を志望し、オープンキャンパスにも参加したものの、そこで見た大学生たちは、勉強よりも友人関係など、大学での生活を楽しんでいるという印象が強くなりました。大学生の先輩などにじっくり話を聞く機会もなく、大学を目指して勉強しても、その頑張りがどう大学の学問につながるのか、大学での4年間が将来にどうつながるかも分かりませんでした。

「大学って一体何をするとこる?」と、大学の意味が見いだせないまま、1年目は結局受験に失敗しました。浪人時代は「自分に負けた



「大学を拠点にして自分から動こう」と決心した大学2年の半ばから、「頑張り度」も「気持ちの向き度」も一気に上昇した

くない」という思いだけで勉強していましたが、大学入学

やる気曲線 インタビュー対象者に「頑張り度」と「気持ちの向き度」を今までの人生を振り返って図式化してもらった。
—が「頑張り度」
—が「気持ちの向き度」

後も「淡々と授業を受けるだけの4年間なのだろうか」と不安は募るばかり。そんなとき、中高の先輩で、高校では同じ演劇部でもあった憧れの先輩と会う機会があり、悩みを打ち明けました。東京の大学に進学したその先輩は、「もっと外に目を向けている人」と会ったり、たくさん経験をしてみては」とアドバイスをしてくれました。「そうか、受け身ではなくて、大学を拠点にして自分から動けばよいのだ。大学はそういう場所なのだ」とようやく気付きました。

それからは美術関係の学会やイベントを探して参加したり、学科を超えて興味のある研究をしている先生の下で勉強したりなど、積極的に行動範囲を広げました。

先日、就職活動の相談をするため、高2、高3のときの担任でいろいろな助言をいただいた恩師を訪ねました。「恋愛がきっかけで哲学に興

味を持ち、大学で専攻した」など、初めて個人的な経験談を話してくれました。私が大学生になり、就職活動をする時期だったので、あえて話をしてくださったのかもしれない。たくさんの人と話をすると、さまざまな価値観が鏡になり、共感できるところ

やそうでもないところがある。分のなかで明確になります。就職活動中、高校時代の恩師を含めたたくさんの人に会って話を聞きました。その度に「自分だったらどうするか」と考えることで、自分の価値観や将来像を考えやすくなりました。

CASE 2 大学生Bさん(女性)

地域活動を通じた、さまざまな人との かわりが自分を大きく成長させた



◎東京の私立大文学部現代社会学科4年。高校では放送部、大学では学園祭実行委員、ラジオクラブに所属。卒業後はネットワーキングニアとして働く予定

地域活動での出会いが 社会に目を向ける契機に

通っていた高校は派手な生徒が多く、志望して入ったものの、周囲にあまりなじみませんでした。放送部に入り、それなりに楽しい日々を過ごしていましたが、次第に

家と学校を往復する毎日でのよいかと疑問を持ち始めました。そんなときに偶然見つけたのが、地域の中高生による区政参加委員の公募です。学校外の人たちと知り合いになれそうですし、社会のことを知り、考える機会になると思いました。高校以外に

データ1 社会人が実感している「高校時代にやっておけばよかったこと」

社会人(3,574人)のうち高校時代にやっておけばよかったことが「ある」34.6%(1,237人)と答えた人の回答から抜粋

カテゴリ	割合
1 勉強全般、特定の分野の勉強(英語以外)	20.4%
2 部活動	15.2%
3 英語の勉強、語学	9.4%
4 留学・海外旅行	9.2%
5 社会や仕事を知る、進路を知る・考える	7.0%
6 友人、対人コミュニケーション、人間関係	6.4%

◎受験に関係ない教科の勉強をもっとしておくべきだった。社会で直接は役立つかわれど、幅広い教養はあった方がいい。困難な時に自分を支えてくれるから。

◎根拠に基づいて考えを展開する論理的思考力を身に付けるために、もっと数学や化学など、理系の勉強をしておけばよかった。

◎数学や理科を勉強しておけば、現在の自分の職業、製造業に必要な技術的な知識の土台として役立ったと思う。

◎文化祭にもっと積極的に取り組み、周囲の友だちと力を合わせて

目標を達成する経験をしておくべきだった。

◎団体競技などの部活動をしておけば、社会で求められるチームワークを経験できただろうと思う。

◎何でも良いから部活動をすべきだった。力を合わせて頑張った、クラスメイトとはまた違う友だちをつくれたと思う。

◎海外留学の機会があれば、異文化社会に生きる人たちと触れ合うことで視野が広がり、大学や日本社会を多角的に捉えられたと思う。

◎職場体験学習でいろいろな職業の現場を知ることが出来たら、もう少し広い視野で自分の進む道を決められたはず。

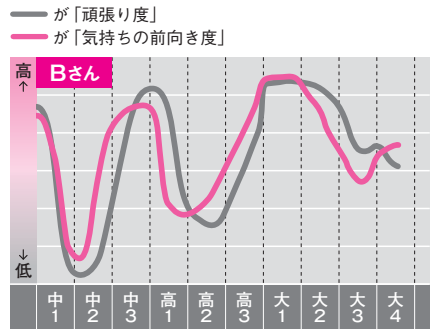
◎先生や親族以外の社会人から、どんな考えから志望大を決め、職業を選んだかを聞くことで、自分の進路選択の参考にしたかった。

◎自分の意見を論理的に述べ、文章にまとめる力を高められる機会があればよかった。社会に出てから絶対役立つと思う。

◎アルバイトなどの社会経験。高校生の自分の力を試せるし、どの程度のことが出来るのかを知る機会にもなるはずだから。

◎もっと積極的に自己主張をすべきだった。協調性はもちろん大切だけれど、いつも周囲の意見に流されてしまう自分の性格にコンプレックスがある。それを変えられたかもしれないから。

データ1からデータ4まではBenesse教育研究開発センター「社会に必要な能力と大学・高校時代の経験に関する調査」(2010年12月)より抜粋。就職活動を経験した全国の大学4年生・6年生、大学院2年生2,059サンプル。全国の社会人1年目~3年目、10年目~12年目(大卒または大学院卒の正規社員・職員。民間企業は従業員数300人以上で1次産業は除く)3,574サンプル



高校入学直後は張り切っていたが、次第に学校になじめなくなり、頑張り度も前向きな気持ちもダウン。高2のときに学校外の活動を始めたことから、再び意欲が高まった

も自分の居場所を見つけれ
れるかもしねないと、2年生
のときに応募しました。

委員は中学1年生から高
校3年生までの約30人。「子
どもの立場からの少子化対
策」がテーマで、5〜6人の
グループで調べ、結果を全員
でまとめて区長に提言しま
した。活動では、厚生労働省
の少子化担当の方との勉強
会もあり、社会問題に関心の
低かった私には学ぶことが
かりでした。結婚や出産など
の将来を思い描くきっかけ
になったことに加え、社会で
起きている問題を自分のこ
とと捉えて考えることが出

来るようになりました。

委員との議論は、毎回、楽
しかったです。年齢に関係な
く、賛成でも反対でも自分の
意見を出し合い、一つの社会
問題について考えていくこ
とは、高校では得られない体
験でした。委員のOB・O
G、区の職員が議論のファシ
リテーターとして参加して
いたので、中学生から大人ま
で、さまざまな人の意見を聞
き、価値観に触れられ、考え
方が広がりました。

**つらくても真面目に
継続すれば力となる**

活動を通して社会への関
心が高まり、大学は現代社会
学科に進みました。大学でも
仲間と何かを作り上げてい
く活動を続けようと、学園祭
実行委員会に入りました。約
120人が所属する大所帯
で、学園祭ウェブサイトを制作
の担当に手を挙げました。中
学生のころに、何でもすぐに
調べられる利便さからイン

ターネットに興味を持った
のですが、どんなのめり込
み、ウェブサイト制作方法を
自分で勉強するようになり
ました。自分の得意なこと
で学園祭を盛り上げることに
貢献できたと思います。

高校・大学でのさまざまな
活動もそうですが、私の良さ
は何事にも真面目に取り組
むところだと思います。振り
返ると、小学生のときに通っ
ていた書道教室での経験が
大きいと思います。最初は親
の勧めで嫌々通っていたの
ですが、真面目に取り組むう
ちに、書道雑誌で特選に選ば
れるまでに上達しました。字
が上手だと褒められること
も増え、何事も続けることが
大切なのだと実感しました。

卒業後はネットワークエ
ンジニアとして働きます。第
1志望はシステムエンジニア
でしたが、残念ながら内定
は出ませんでした。志望とは
違う仕事に就くことになり
ますが、今までとは違う環境

で新たな出会いがあると思
うとわくわくします。私の長
所である真面目さを生かし
て頑張りたいと思います。

CASE 3 社会人Cさん(男性)

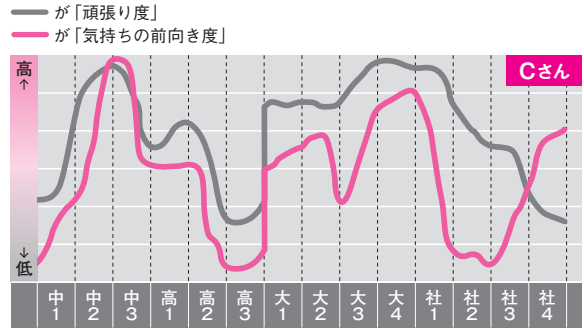
**小学校時代の実験重視の授業が
理系の道を進む原点到**

◎29歳。愛知の国立大工学部エコロジィ工学
専攻出身で、大学時代は、自動車のプラスチック
製品のリサイクル方法について研究。現在
は、自動車部品関連の企業で企画・開発を担
当している

**小学校時代の理科の実験が
進路決定の原点到**

現在、自動車部品関連企業
の技術職として、企画・開発
を担当しています。振り返っ
てみると、私の原点は、小学
校6年生のときの理科の授
業にあると思います。実験が
大好きな先生がいて、通常、
小学校では行わないような
実験をしたり、「もしも原子
が見えたなら」というタイト
ルで、酸素原子の1億倍の模
型を作ったりしました。教科
書に書かれていることが、実

際に目の前で起こるのが面
白く、徐々に理科、特に化学
の世界に引き込まれていき
ました。この実験の経験があ
ったおかげで、理論を重視す
る高校の化学の授業でも、教
わる内容を具体的に思い浮
かべることが出来、理解が進
みました。
大学でも、実験でリアルな
科学現象を体感したいとい
う思いは強く、少人数で実験
重視の大学に進学しました。
「環境」を生物学や工学、
化学などさまざまな学問か
らアプローチする学部で、4



実験に没頭できた大学時代は総じて「頑張り度」が高い。特に研究室に配属された大学4年からは、2つの曲線ともに上昇

年生で研究室に配属され、自動車のプラスチック部分のリサイクルする方法について、企業と連携して研究しました。

企業との共同研究では、結果を出すことが求められます。週1回、教授と企業の方との進捗ミーティングもあり、綿密に計画を立てたうえで実験を実施しなければならず、共同研究の厳しさを経験しました。設定をいろいろ変えながら、ひたすらプラス

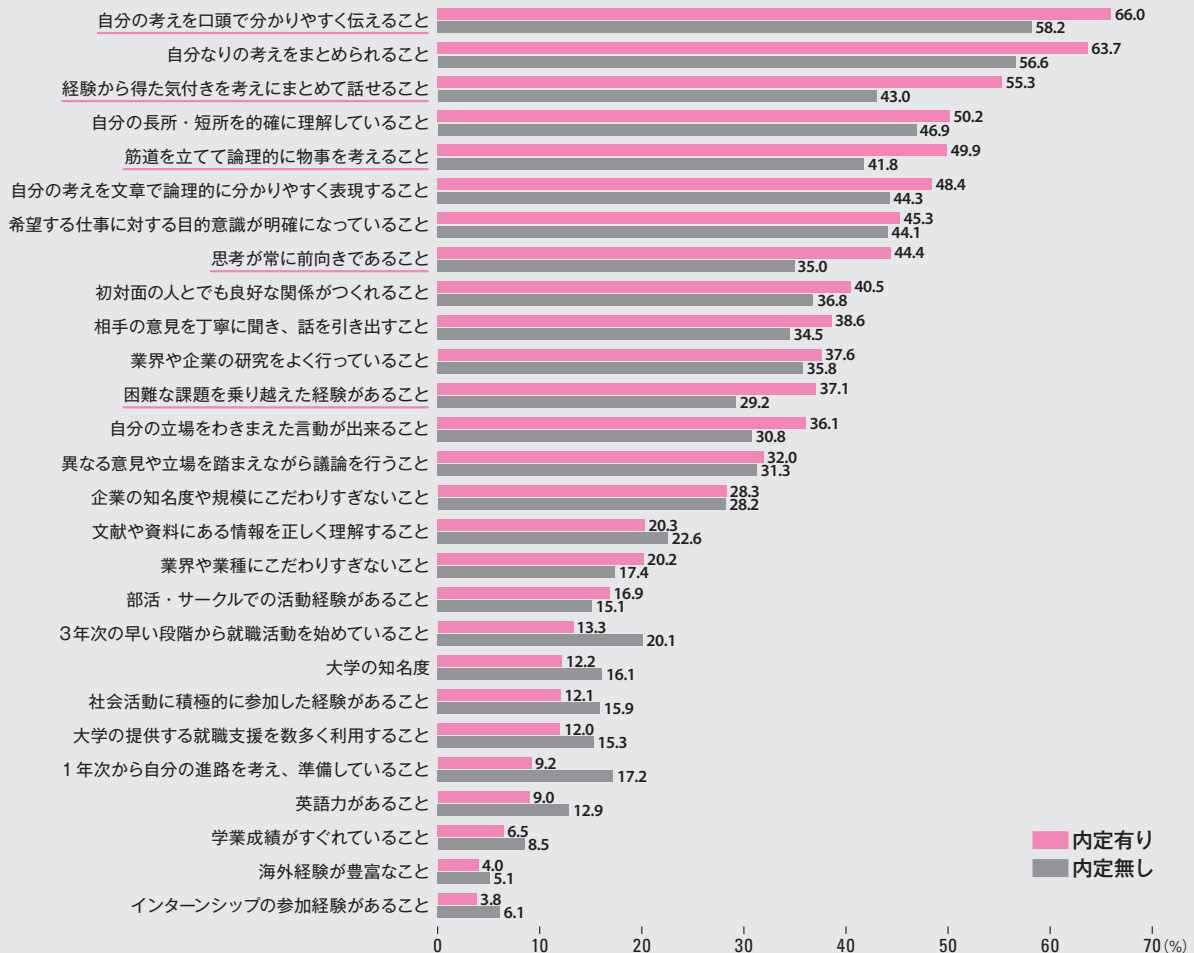
チックを燃やす地道な実験を、ときには徹夜しながら続ける毎日。担当教授からは、大まかな指針だけを与えられ、あとは自分で創意工夫しなければなりません。研究結果を出すために、いろいろな解決法を自分で考えては失敗することの繰り返しでした。

ただ、私が所属していた学部には、生物学関係をはじめとした、さまざまな学問領域の研究室が集まっていたので、研究の壁にぶつかったときには異なる学問領域の研究室に相談に行くこともありました。自分と専門領域や考え方が異なる人たちと解決策を探る過程はとても刺激的で、新たな視点をいくつも得られました。

**実験で身に付いた力が
社会人になっても役立つ**

社会人になり、これまでの経験が役に立っている場面はたくさんあります。例えば

データ2 就職活動においてどの程度重要だと感じましたか (「とても重要」の比率)



就職活動を経験した全国の大学4年生・6年生、大学院2年生 2,059 人の回答。下線 〃 の項目は、内定有りの学生と内定無しの学生の回答差が大きい上位5項目

ば、自分の前に課題が現れたとき、解決策を自分で考えて実行する力。これは、実験の過程と同じです。入社当時は自動車の設計や図面の知識がなく、会議で先輩の話に全くついていけませんでした。仕事では、専門以外のことで学ばなければならぬことがたくさんあると痛感し、「技術士」の資格を取得するという目標を立て、入社前に1時間集中して勉強。製図などの知識を身に付け合格することが出来ました。

仕事をしながら新しいことを学び続けるのは大変でしたが、私は、逆境下でも考え方を変えたり工夫したりして、そこに面白さを見つけています。これは、小学校時代のソフトボールクラブでキャプテンをした経験が大きく生きています。休みの日は朝5時から日暮れまで厳しい練習が続くクラブで、理不尽なことともたくさんありました。そんなつらいなかでも、

仲間と励まし合い、みんなで楽しむ工夫をしました。今考えると、この経験も課題解決力につながっているのかもしれないですね。

また、企画・開発という仕事では、いろいろな人と意見を出し合い、一つのアイデアに肉付けしながら、ものを作る力、コミュニケーション力や会話力、伝える力が不可欠です。これは大学時代、課題を解決するためにいろいろな人と意見を出し合った経験が役に立っています。人の意見を否定するのではなく、受け入れ、更に膨らませてより良いものを作っていくという姿勢は本当に大切だと思います。更に、相手が言ったことを的確に理解する力も必要です。相手が言いたいことは何かを考えることで相手のことを思う力が付き、それが、新しいアイデアを生みます。私がこれらの力を付けることが出来たのは、先ほどお

話しした大学の研究室での創意工夫と失敗の繰り返し

の経験が大きく影響していると思います。

CASE 4 社会人Dさん(女性)

物理の授業で学ぶ興味が高まり 自ら机に向かうようになった



◎25歳。父親からパソコンをもらったのをきっかけにコンピュータに興味を持ち、福岡の私立大情報工学部情報通信工学科に進学。現在はシステムエンジニアとしてコンピュータ・ソフトの開発・保守を行っている

日常生活に潜む 物理法則に衝撃を受ける

小学校、中学校と、私は勉強が好きではありませんでした。先生や両親に叱られたくないので勉強はしていましたが、正直に言っていて、楽しいとは思えなかったのです。変わったのは、高2で物理を学んでからです。私の高校では物理は選択科目でした。最初の授業は運動エネルギーについての説明で、先生は電車や自転車がなぜ動くのか、そこにどんな力が働いて

いるのかを解説しました。普段よく使う移動手段が、自分が知らない物理法則によって動いており、乗っている自分もその法則の影響を受けていることが分かり、日常生活を見る目が変わるような衝撃を受け、物理に対する興味が一気に高まりました。授業では毎回、センター試験などの過去問題が宿題に出され、その解法は次の授業で生徒が発表します。物理を選んだ生徒は少なく、全員が指名されるため、宿題をしないわけにはいきません。しか

も発表中は、「その公式を使った理由は？」「そこに働いている法則は？」と先生から質問が飛ぶのです。先生は、返答が曖昧であれば叱りましたが、正確に答えられれば「よく頑張ったな」と、褒めてくださいました。

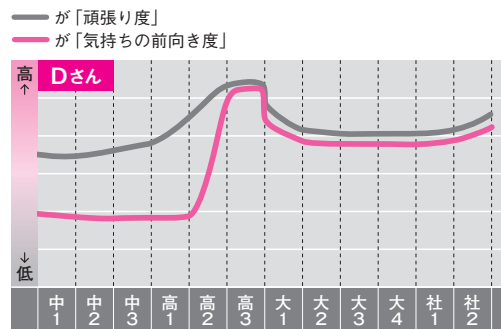
私は完璧に答えられるように準備して授業に臨むようになりました。教科書や参考書の記述で納得できなければ、図書館で調べました。先生に努力を認めてほしかったし、何よりも物理の知識を深めたかったのです。そうした気持ちは、物理の授業を受けていた生徒は皆持っていたと思います。実際、私たちは休み時間や放課後に集まって解き方を相談し、調べ物でも協力し合いました。

学ぼうという意欲は 他教科の勉強にもつながる

問題を解くのが楽しくなった物理は、成績がどんどん上がり、「もつと難しい問題

を解いてみたい」という意欲も生まれました。それに比べて、数学の勉強にも身が入るようになったのです。

その頃、私のクラスでは担任の先生の方針で、定期テストの各教科と総合得点それぞれの成績上位者10名を表にして貼り出していました。私は、物理と数学は順位表に名前が載るのですが、総合得点の順位はさほど良くありませんでした。最初は「好きな勉強だけすればよい」と考えていたものの、次第に「他教科だって勉強すれば、きつ



物理の授業と出会った高2で、「気持ちの前向き度」が急上昇。「親に叱られたくなくて勉強する」状態から、「勉強が楽しい」「友だちと力を合わせて調べる」というように勉強への姿勢が大きく変わった

と出来るようになる」と思うようになったのです。

根気よく予習・復習を続けるうちに、総合得点でも10位以内に入れるようになりました。友だちと一緒に考えたり、先生に質問したりすることで、歯が立たなかった問題が解けるようになる。この喜びは、どの教科にも共通することになり、気が付いたのです。

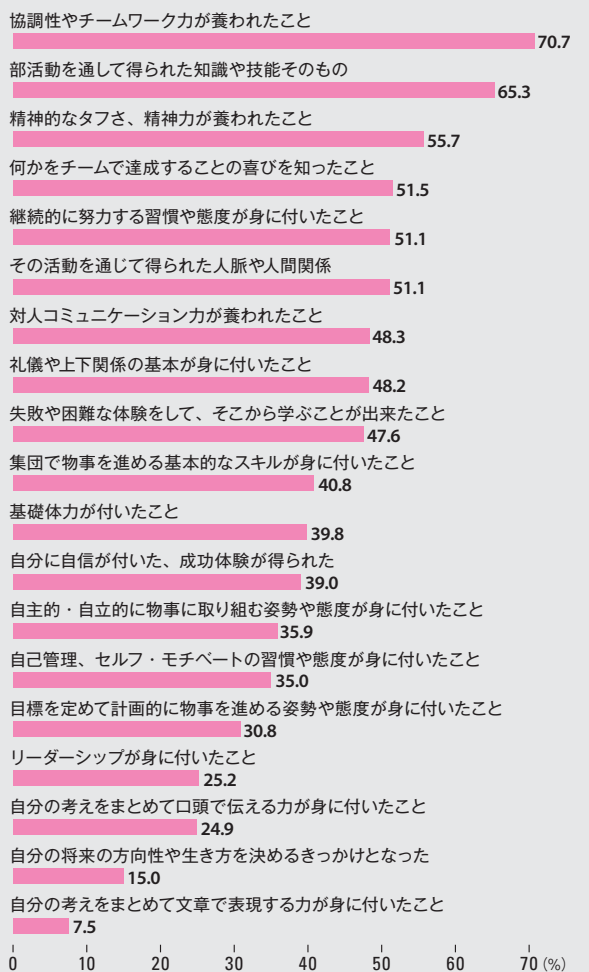
今振り返ってみると、高校の体験は今の仕事の進め方に生きていると感じます。私の仕事はシステムエンジニアです。この仕事にはチームワークが必要です。クライアントの求めに応じて、チームの一人ひとりが互いに進捗状況を報告し合って業務を進めます。時間や分量の面で厳しい依頼もありますが、そうした依頼のほうはむしろモチベーションが高まります。一つの目標に向かって皆で協力することで自分がいかに成長するかを、高校時代に実感できましたから。

と出来るようになる」と思うようになったのです。

根気よく予習・復習を続けるうちに、総合得点でも10位以内に入れるようになりました。友だちと一緒に考えたったり、先生に質問したりすることで、歯が立たなかった問題が解けるようになる。この喜びは、どの教科にも共通することになり、気が付いたのです。

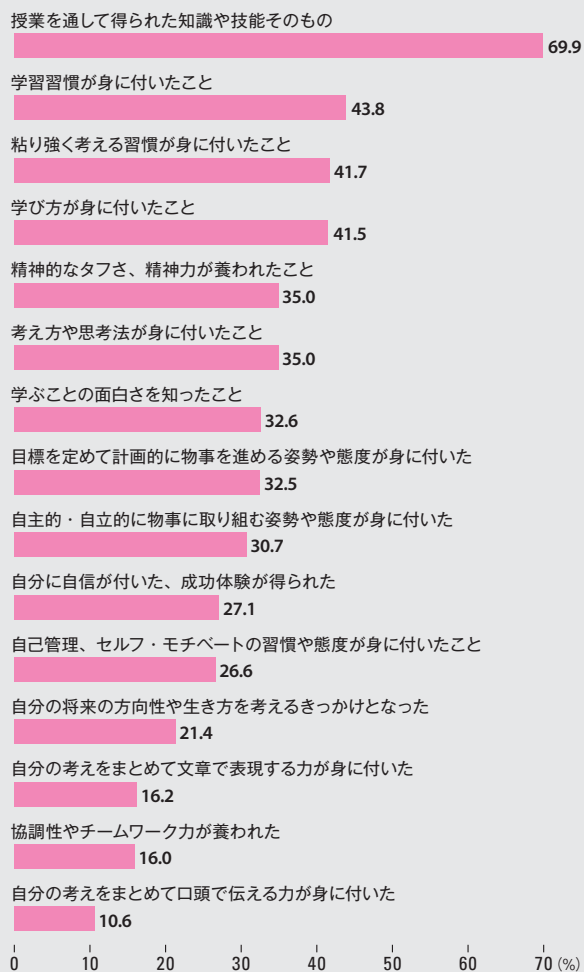
今振り返ってみると、高校の体験は今の仕事の進め方に生きていると感じます。私の仕事はシステムエンジニアです。この仕事にはチームワークが必要です。クライアントの求めに応じて、チームの一人ひとりが互いに進捗状況を報告し合って業務を進めます。時間や分量の面で厳しい依頼もありますが、そうした依頼のほうはむしろモチベーションが高まります。一つの目標に向かって皆で協力することで自分がいかに成長するかを、高校時代に実感できましたから。

データ4 高校時代の「部活動」を通して得られたこと



部活動に最後まで所属していた人で「とても力を入れた」「まあ力を入れた」と回答した大学生、大学院生 1,085 人の回答

データ3 高校時代の「授業」を通して得られたこと



授業に「とても力を入れた」「まあ力を入れた」と回答した大学生、大学院生 1,321 人の回答